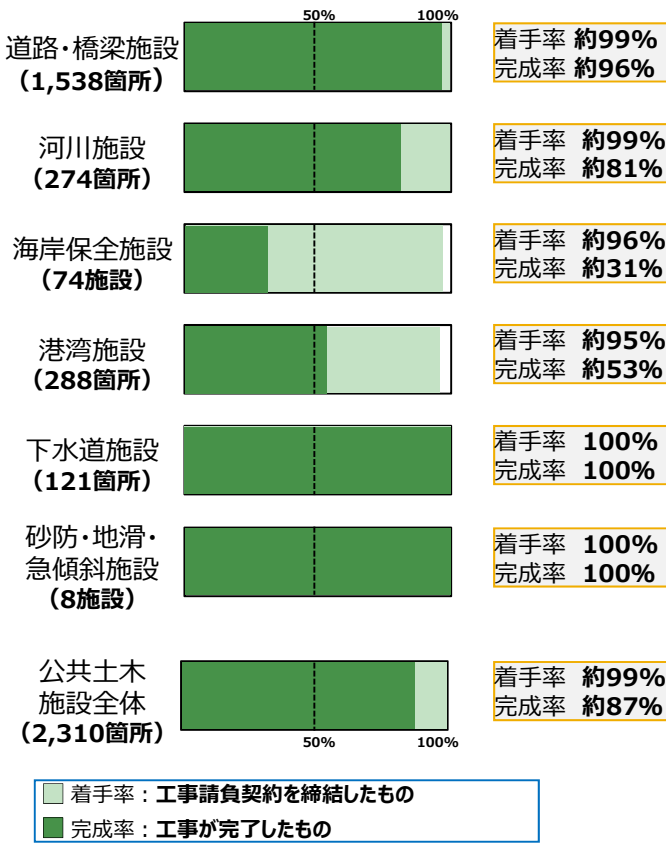


- ・復旧・復興事業の進捗状況【平成28年10月末現在】
- ・復興トピックス（平成28年8月～平成28年10月）

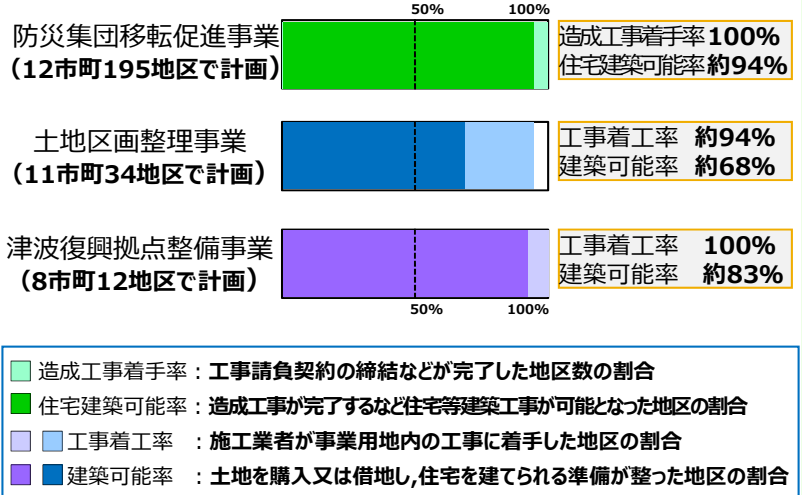


復旧・復興の進捗状況【平成28年10月末現在】

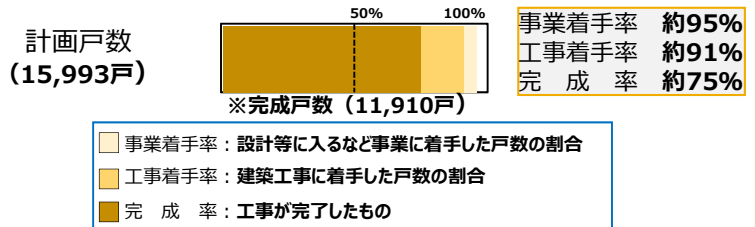
●災害復旧工事の進捗状況



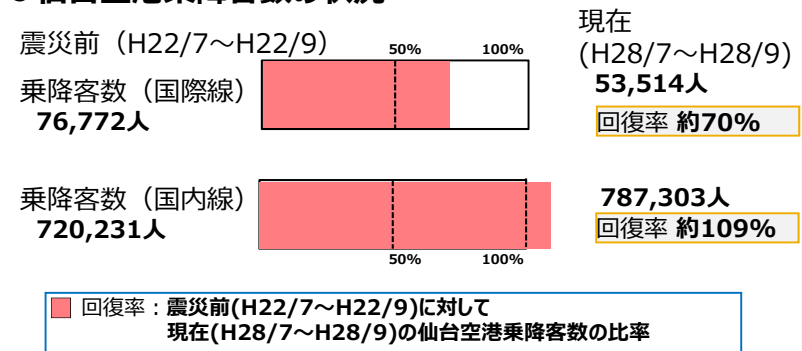
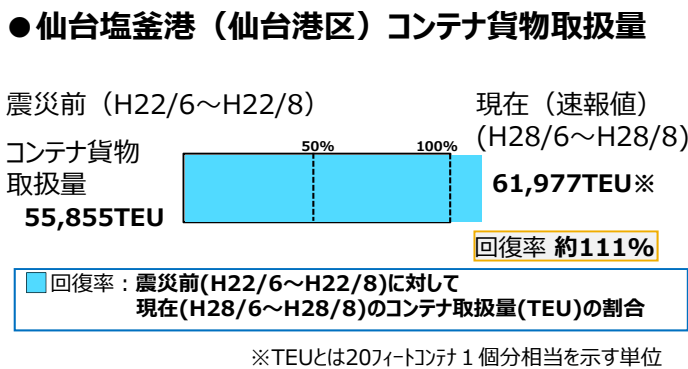
●復興まちづくり事業の進捗状況



●災害公営住宅の整備状況



●仙台空港乗降客数の状況



▲宮城県では、毎月復興の進捗状況を取りまとめて公表しています。詳しくは下記URL又はQRコードを参照願います。

・震災復興・企画部震災復興政策課ホームページ「復興の進捗状況」

<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/shintyoku.html>

・土木部土木総務課ホームページ「東日本大震災からの復旧・復興事業の進捗状況」

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/dobokusom/doboku-sintyoku-press.html>



復興トピックス (平成28年8月)

8月

●8/10 国道398号「戸倉・波伝谷復興道路」開通

●8/19 2016夏休み！
小学生と保護者の建設現場見学会を開催

●8/22 平成28年度建設業担い手確保セミナー
建設産業は、社会資本の整備をはじめ、災害時の対応やインフラの維持管理を担うとともに、地域の経済や雇用を支えるなど重要な役割を果たしています。
しかし、宮城県の建設産業を取り巻く環境は、東日本大震災からの復旧・復興事業終了後には建設投資額の大幅な減少が見込まれるとともに、高齢化や生産年齢人口の減少に伴う担い手不足などの多くの課題を抱えています。
宮城県は、安全・安心な県民生活を支えていく上で、欠かすことのできない建設産業の経営の維持発展に向けて「建設業担い手確保セミナー」を開催しました。

●8/31 主要地方道女川牡鹿線
(仮称)高白トンネル貫通

●8月10日 国道398号 「戸倉・波伝谷復興道路」開通

宮城県が南三陸町と連携して平成23年度から整備を進めてきた、国道398号戸倉・波伝谷復興道路が平成28年8月10日(水)に供用開始となりました。国道398号は、石巻市門脇の国道45号を起点とし、南三陸町を經由して秋田県由利本荘市に至る延長約276km(うち宮城県管理延長約174km)の幹線道路です。
「戸倉復興道路」及び「波伝谷復興道路」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町戸倉地区における防災集団移転団地(戸倉地区、松崎地区、波伝谷地区)と南三陸町中心市街地である志津川地区を連絡する道路として整備をしたものであり、南三陸町内では初の復興道路の開通となりました。



この地図は、測量法第29条に基づく承認「平25東復、第13号」を得て、国土地理院発行の5万分の1の地形図を複製したものを、一部転載したものである

●8月31日 主要地方道女川牡鹿線 (仮称)高白トンネル貫通

(主)女川牡鹿線のうち、女川町高白浜地内から横浦地内までの区間は線形不良や狭隘箇所が多く存在することから、平成24年度から道路の改良事業を進めてきました。

今回、事業区間の一部である(仮称)高白トンネルの貫通記念式典を開催しました。式典には、女川町長をはじめ県及び町議会議員、地元関係者など約80名に参加いただきました。式典では女川町長、地元選出県議会議員などにより掘削ボタンが押されトンネルが貫通し、通り初めが行われたほか、鏡開き、万歳三唱などによりトンネル貫通を祝しました。

また、トンネル名称も『五部浦(ごぶうら)第二トンネル』に決定したことを披露させていただきました。



●8月19日 2016夏休み！ 小学生と保護者の建設現場見学会を開催

宮城県が地域建設業の振興を目的として策定した『新・みやぎ建設業振興プラン』(平成28年3月)で基本目標の1つに掲げた「担い手を“育てる”」の取組として、(一社)宮城県建設業協会と宮城県の主催で「2016夏休み！小学生と保護者の建設現場見学会」を名取市内の建設現場で開催しました。

参加者は、復興事業が進む工事現場を見学し、実際に工事で使われている重機や測量機器などの操作を体験していただきました。また、名取市関上地区の復興まちづくり計画の内容を聞いていただきました。

見学会を終えると子供たちから「楽しかった！」という声も多くあがり、夏休みの思い出作りとともに、建設業の仕事をも身近に感じていただける機会となりました。



▲「新・みやぎ建設業振興プラン」については、事業管理課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jigyokanri/>

復興トピックス (平成28年9月

～10月上旬)

9月

●9/1 平成28年度第一回「知水講座」開催

「知水講座」は、公開講座として、県民の皆様へ河川行政についてよりよく知っていただくとともに、今後の宮城県の河川行政のあり方を一緒に考えることを目的として、平成16年から実施しています。

今回は昨年9月の関東・東北豪雨被害を踏まえた最新の治水対策等について知識を深めるとともに、吉田川が破堤した昭和61年8月の台風10号から30年という節目の年でもあることから、大規模浸水被害に対して、過去の教訓や最新の知見から今後の治水対策のあり方について学びました。

また、早稲田大学理工学術院の関根教授をお招きし、大規模氾濫時の課題や氾濫発生時の対策、都市水害対策など今後取り組むべき大規模水害対策等について最新の知見等をご講演いただきました。

●9/15 宮城県土木部

優良建設関連業務及びMVP表彰式

県土木部が発注した建設関連業務のうち、業務成績が特に優れ、他の模範となる受注業者及び技術者を「優良業務」及び「優良技術者」として、また、業務成績が最も優れ、他の模範となる技術者を「MVP」として表彰しました。今年度は、優良業務表彰13業務・9社、優良技術者表彰13業務・13名、MVP表彰6業務・6名が受賞されました。

※MVP: Most Valuable Professional

●9/16 「矢本海浜緑地」工事安全祈願祭開催

●9/30 南三陸町志津川西地区

災害公営住宅 完成引渡し

南三陸町志津川西地区で整備を進めていた災害公営住宅が完成し、引き渡しが行われました。完成した住宅は60戸(RC造52戸・木造8戸)で、すでに入居が始まっています。

●9/30 東日本大震災からの復興

災害公営住宅整備の記録(中間報告)

～5年の歩み～を発行

宮城県の災害公営住宅整備事業は、平成27年度末までに計画戸数約1万6千戸のうち約1万戸が完成するなど、着実に整備が進んできました。震災から5年間の集中復興期間が終了する節目を迎えたことを踏まえ、国・県・市町村その他関係機関におけるこれまでの取り組みを中間報告としてまとめ、記録誌として発行しました。

▲記録誌は、復興住宅整備室のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukuiuu/>

10月

●10/9 「仙台空港祭2016」開催

民間航空再開40周年にあたる平成4年(1992年)から、9月20日「空の日」、9月20日～30日「空の旬間」が設けられ、9月から10月にかけて全国各地の空港等で航空に関する様々な催し物が実施されています。

仙台空港でも、空港を身近に感じていただけるよう、今年も様々な「空の日」イベントが開催されました。

●10/12 エバー航空「仙台ー台北線」増便

●10/15 北上運河河川災害復旧工事竣工式

●9月16日

「矢本海浜緑地」工事安全祈願祭開催

東日本大震災の被害により、新しい場所に再建する「県立都市公園 矢本海浜緑地」の工事安全祈願祭を開催しました。被災前の矢本海浜緑地は、広場や豊富な遊具があり年間15万人が訪れる人気スポットでしたが、東日本大震災に伴う大津波により壊滅的な被害を受けました。

新たに再建する公園は、平時は大人から子どもまで楽しめる広場などを整備し、災害時には利用者などの緊急的な避難先となる防災機能をあわせ持った公園となる予定です。



●10月15日

北上運河河川災害復旧工事竣工式

北上運河河川災害復旧工事は、東日本大震災に伴う津波により被災した河川堤防の復旧を行うもので、平成25年4月に工事着手し、このたび復旧工事が完成したことから、沿岸部の河川災害復旧第1号の完成として、関係者への感謝の意を表するとともに、地域の方をはじめ広くお伝えするため、竣工式典を開催しました。

竣工式は、北上運河旧河川敷(東松島市矢本字板取)において開催し、根本国土交通大臣政務官、国会議員6名をはじめ、県議会議員や国、東松島市の来賓を含め、120名の方の参加をいただきました。



【事業概要】

事業主体 : 宮城県
事業箇所 : 宮城県東松島市矢本
(一級河川鳴瀬川水系北上運河)
事業費 : 約200億円
工期 : 平成25年4月～平成28年9月
工事概要 : 復旧延長 L=6.4Km
堤防高の変化 : TP+1.3m ⇒TP+4.5m(+3.2m)



●10/16~19 東北外航クルーズ船誘致促進事業

宮城県は国土交通省東北地方整備局、東北経済連合会とともに、外国クルーズ船寄港誘致につなげるため、米国の大手クルーズ船運航会社「ホーランド・アメリカグループ」の関係者に対し、港湾施設の視察対応を実施しました。

●10/23 山元町新市街地まちびらき

●10/24 国道398号(仮称)相川トンネル貫通

●10/24 (仮称)鎮守大橋 橋梁下部工

工事安全祈願祭開催

(仮称)鎮守大橋は、住居系の整備が進む石巻市門脇地区と、石巻漁港背後地の水産加工団地など産業系の土地利用が進む湊地区を結ぶ、都市計画道路「南光湊線」の旧北上川に架かる全長536mの橋梁です。橋が架かることにより道路ネットワークの強化、生活の利便性の向上、災害時における避難路及び緊急路及び緊急輸送道路としての機能の確保などが期待されております。

安全祈願祭には、関係者約60名が参列して神事が執り行われ、工事の安全を祈願しました。

●10/30 三陸沿岸道路 登米志津川道路 (三滝堂IC～志津川IC間)開通

●10月23日 山元町新市街地まちびらき

東日本大震災により大きな被害を受けた山元町において、沿岸部の被災者が移転する「つばめの杜」「新坂元駅周辺」の両地区の「新市街地まちびらき」が開催されました。つばめの杜地区の式典は、来賓に橋復興副大臣や山田宮城県副知事、国会議員、宮城県議会議員、山元町へ職員派遣を行った派遣元自治体の首長、町関係者など約200人を迎え、山下中学校吹奏楽部による演奏で幕を開けました。齋藤町長は式辞で「全国からの支援のおかげで、新市街地の誕生という、大きな節目を迎えることができました。後世に誇れる町を一丸となってつくってまいります」と話していました。関係者一同によるテープカットやくす玉割りが行われ、復興の節目を祝いました。



写真出典：山元町

●10月30日

三陸沿岸道路 登米志津川道路 (三滝堂IC～志津川IC間) 開通

国土交通省が整備を進めてきた、三陸沿岸道路「登米志津川道路」のうち、「三滝堂IC～志津川IC間」が開通しました。登米志津川道路は、南三陸町志津川地区の津波浸水域を回避し、災害時には国号45号の代替路線となる、緊急輸送路として機能します。

今年4月の三滝堂ICに続き、今回の志津川ICまでの開通によって、「登米志津川道路」が完成となり、南三陸町と仙台都市圏が高速道路で結ばれることになりました。今回の完成により、被災沿岸地域の復興を力強く後押しするとともに、南三陸地域の基幹産業である水産業など、産業や経済の活性化、及び観光振興に大きく寄与するものと期待されています。



●10月24日

国道398号(仮称)相川トンネル貫通

石巻市北上町十三浜地区は、東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受けました。このような状況から、十三浜字猪の沢から浪田地内までの延長約1.9kmを計画区間とし、沿線に計画されている石巻市の防災集団移転推進事業地相互のアクセス向上を図るとともに、津波発生時においても寸断しない災害に強い道路ネットワークの構築などを目的に、平成24年度から相川復興道路事業として着手してきました。

今回、相川復興道路の一部区間である(仮称)相川トンネルの貫通に伴い、貫通式を開催しました。式典には、石巻市長をはじめ県及び市議会議員、地元関係者など約70名に参加いただきました。式典では、重機械による貫通を行い、参加者からは「復興の光が見えた」とのお言葉をいただき、鏡開き、万歳三唱などによりトンネル貫通を祝しました。



○記事に関する問い合わせ○

宮城県土木部土木総務課企画調整班

TEL : 022-211-3108

E-mail : dobokgk1@pref.miyagi.jp

H P : <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/dobokusom/>